

R 3 学校評価自己診断について（分析）

【回答率について】

保護者 肢体 75%（11 ポイントアップ）知的 73%（3 ポイントダウン）であった。
教職員 肢体 100%、知的 97%（4 ポイントアップ）で、ほぼ全教職員の回答を得た。

【保護者の回答について】

- ・両部門とも本校の学校の取り組みに対して理解してくださり、概ね好意的にとらえてくださっていると推察される。
- ・「施設・設備の点検、事故防止に配慮」「地震や火災などの避難訓練や防災教育」といった項目の肯定的回答が低い。3度の天井ボードの落下に対する保護者の不安の大きさが反映されていると考えられ、安心安全の学校づくりに向けた大きな課題といえる。
- ・知的部門では進路指導に関する項目の肯定的回答が低い。内部進学率が高いが、教育支援計画を作成する際に、身につけたい力や将来像を保護者と確認しあい、進路に向けてのイメージを共有しあいたい。また、進路説明会等の情報発信の機会を適切に設け、高等支援学校や専修・専門学校、地域の中学校等を希望する児童生徒に対しての進路指導にも一層努めていきたい。

【教職員の回答について】

- ・知的部門では「ICTの活用」の項目について顕著なポイントアップが見られた。
- ・「地域のセンター校的役割」「個に応じた校内人事や校務分掌の配置」「快適な職場環境」、「施設整備の点検・管理」「経験の少ない教職員の育成」の項目についてはポイントアップが見られて改善傾向にはあるが肯定的回答が依然低い状況が続いている。引き続き重点的に取り組む必要がある。